令和８年度品川区連携自治体ワーケーション促進事業

【東京システムハウス株式会社】

ワーケーション先	熊本市（人吉市・球磨郡・南阿蘇村・益城町）
日程	2026年7月27日～29日
参加人数	2名
参加理由	・先進的な防災知見の習得： 地域防災や震災復興において豊富な知見を持つ熊本市を訪問し、自社で現在取り組んでいる防災事業に関する知見をさらに深めるため。 ・ネットワーク構築と協業の模索： 熊本県各地における災害復興や地域防災の取り組みを学ぶとともに、自治体・地域団体とのネットワークを構築するため。また、防災教育やコミュニティ支援等の分野において、自社防災アプリを活用した協業や実証実験の可能性を探るため。
訪問をとおして感じたワーケーション先自治体の魅力など	・熊本市：商業施設や飲食店が充実し、地元住民と観光客で活気に溢れています。市電やバスなどの公共交通機関も発達しており、利便性の高い都市環境が魅力です。 ・人吉市、球磨郡：豊かな自然に囲まれたのどかな地域です。「共創の流域治水」の現場では、地域課題に真摯に向き合う関係者の皆様の熱意と温かさに触れることができました。 ・南阿蘇村：雄大な自然の中に佇む「熊本地震 震災ミュージアムKIOKU」を視察。震災当時の遺物や遺構から地震の脅威を肌で感じるとともに、力強く進む復興の歩みを実感しました。 ・益城町：豊かな自然環境の中、2016年の熊本地震の爪痕と、そこから復興を遂げた美しい街並みを視察しました。ガイドや地域の方々の穏やかな人柄に触れ、非常に居心地の良さを感じる街でした。
今回のワーケーションをとおして得た気づき	・復興への力強さと防災意識の高さ 視察先で過去の災害の爪痕を目の当たりにし、自然災害の脅威を再認識しました。同時に、困難を乗り越えて復旧・復興を成し遂げた住民の方々の力強い姿勢と、未来に向けた防災意識の高さに深い感銘を受けました。 ・「日常からの備え」の重要性の痛感 滞在中に大地震（令和8年熊本地震）に遭遇するという予期せぬ事態を経験し、平時から「最悪の事態」を想定した備えと当事者意識を持つことの重要性を、身をもって痛感しました。

本事業に参加した感想	・はじめに、滞在中の7月28日に発生した「令和8年熊本地震」でお亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また、懸命な救援・支援活動にあたられている方々に深く敬意を表します。 ・地震発生時は益城町内で車中におり、激しい揺れを経験しました。信号機の停電、漏水、電線の断線などインフラに被害が出る中、パニックに陥ることなく非常に冷静に行動される住民の方々の姿が強く印象に残りました。 ・益城町が2016年の被災から10年を経て、人口が震災前の水準に回復したという事実は、地域の復興力の高さを象徴する素晴らしい驚きであり、大きな希望だと感じました。 ・全体を通じ、過去に甚大な被害を受けた地域において、世代を超えた方々が一体となって防災（地震対策、治水、震災の伝承など）に取り組む姿を直接拝見できたことは、今後の自社の防災事業を推進するうえで大変貴重な財産となりました。